

【音楽】

AACサウンドパフォーマンス道場プロジェクト 特別公演

日時：2011年1月21日（土）

会場：愛知県芸術劇場小ホール

【第1部】13:30～15:45

holon (幻燈ダンス) + 福島諭 (サウンド) 『影向-YÔGÔ-』

MYK!! 『CLAY MUSIC』

池田萌 『improvisation for flute solo』

水野みか子 『H-aki』 (演奏：中川さと子 (ヴァイオリン)、水野みか子 (コンピュータ))

徳久ウィリアム (ヴォイス) + 竜巻太郎 (ドラム) 「即興デュオ」

井藤雄一 『fmi』

足立智美 (ヴォイスほか) + 田中悠美子 (義太夫三味線) 「即興デュオ」

【第2部】16:30～19:30

鏑木章裕 (サウンド) + 舞澤智子・下垣浩 (パフォーマンス) 『metamorphosen-変容-』

馬場省吾 + 北條知子 『コンピュータ同士の将棋対局における棋譜読み上げ』

垣尾優 (動き) × 高村聡子 (歌) 『息の先』

黒澤勇人 『携帯電話のための5分間』

Electro-Acoustic Operation 『T.V. show “R”』

安野太郎 『音楽映画 第十番』

フォルマント兄弟 『せんだいドドンパ節』 (演奏：岡野勇仁 (MIDIピアノ))、池田拓実 『テーブルの音楽 (Table Music)』 (撮影：加藤光)

池田拓実 『テーブルの音楽 (Table Music)』



holon+福島諭 『影向-YÔGÔ-』
(撮影：加藤光)



毎年開催している、若手アーティスト育成支援プログラム、AACサウンドパフォーマンス道場プロジェクトに関して、今回は開催5年目の節目ということで、特別公演という形で合計15組による上演を行った。内訳は、選考委員によるパフォーマンス3組、過去の道場プロジェクトに入選したアーティスト4組、公募したノンセクションの出演者8組だった。開催目的は、「サウンドパフォーマンス」という言葉で捉えられる多様な表現を、細分化することなく、劇場という場に一堂に会する機会を設けることで、観客やアーティスト自身が様々な試行錯誤的な作品に出会い、表現の幅と可能性を問う機会を設けること。またノンセクションで出演者には上演の機会を与え、アーティスト支援につなげることだった。

公演は、休憩時間を含めて合計6時間にも及ぶ長時間の上演で、いわゆる現代音楽、即興セッション、ダンスとのコラボレーション、映像パフォーマンス、それらのいずれの要素も含む表現、あるいはいずれの要素も含まないノンジャンルの表現などがあつた。

出演アーティストたちは、自分の出番以外に客席などで鑑賞することも多く、互いに様々な表現に出会っていた。また鑑賞者にとっても、その人なりに自分が興味を持つ演目やアーティストを見出すことができた。